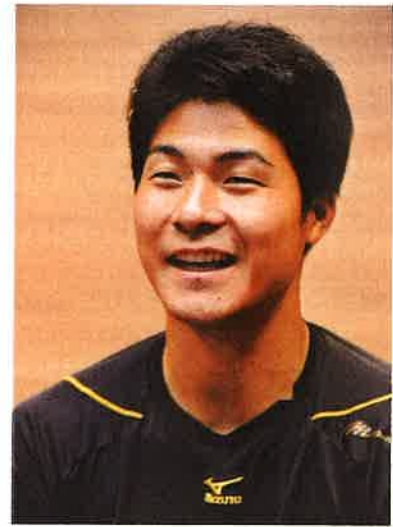


中学硬式野球

Clinic

強豪チームの
練習法教えます!

- ▶ 都筑中央
ボーイズ
- ▶ 富士河口湖
リトルシニア
- ▶ 尾道
リトルシニア



「ミス
を恐れず、
楽しく」

Player's Advice

茂木栄五郎 [東北楽天]



ジャイアンツカップ優勝チーム練習訪問

佐倉リトルシニア

Baseball Clinic

◎ベースボール・クリニック

第11回全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップ ≪≫ 全試合結果&決勝戦レポート ≪≫



終盤のビッグイニングで 佐倉が3年ぶりの頂点に!

【決勝】8月19日 東京ドーム

小山ボーイズ(栃木)	0	0	0	3	0	0	0	3
佐倉リトルシニア(千葉)	0	0	1	0	0	6	X	7

【小】仲三河-中山
 【佐】諸隈-京極
 本塁打:西川(佐)

えた。しかし6回裏、先頭の四番・高田が内野安打で出塁すると、五番・西川が右翼ポール際に本塁打をたたき込み試合を振り出しに。これが小山・仲三河の調子を乱し、二死満塁から二番・古滝の内野安打で勝ち越し。さらに押し出し死球とこの回2打席目の高田の2点適時打で、一挙6得点のビッグイニングをつかった。

終盤での大量リードに力をもらった諸隈は、7回表は2奪三振で三者凡退。佐倉が2014年以来2度目、交流大会期間を含めると3度目の日本一を決めた。

流れを変えた 四番・西川の本塁打

記録的な連日の雨の影響で、2回戦2試合が試合途中で中断、継続試合となるなど、不規則な日程を余儀なくされた今年のジャイアンツカップ。1日延期となった19日の決勝戦もプロ野球の試合が終わり次第の開始となり、選手たちにとっては調整の難しいゲームとなった。

序盤は佐倉・諸隈、小山・仲三河の両エースから両軍とも得点機をつかめなかったが、先制点を挙げたのは佐倉だった。3回裏、先頭打者の八番・京極が右前へヒットを放ち、相手エラーもあり一気に三塁へ。九番・高橋の中前打で生還した。その後、二死二塁から三番・度会が中前打を放つも、中堅手の好返送で本塁

タッチアウトとなり追加点はならなかった。

1点を先取された小山は4回表にすかさず逆襲。無死から死球とパスボール、上戸鎖のバント安打で一、三塁に走者を置くと、まずは六番・朝井のスライズで同点に。そこから星の適時三塁打で勝ち越し。続く小林のスライズがバント安打となりリードを2点に広げた。

記録に残らないミスが絡んだ失点で逆転を許した佐倉は、5回裏に一死二、三塁の好機を逃し、流れを逸したかのように見



惜しくも敗れたがスライズやセーフティーバントなど小技をうまく使い得点を重ねた小山ボーイズ。写真はエースで四番の仲三河(写真左)と適時三塁打を含め3打数3安打と大当たりだった七番・星

【準決勝】8月18日

〈東京ドーム〉

佐倉リトルシニア (千葉)	0	0	0	2	0	2	2	6
浦和リトルシニア (埼玉)	1	0	0	0	0	2	0	3

[佐] 四十住、藤田-京極
[浦] 櫻井、栗原、中林-中井

〈東京ドーム〉

小山ボーイズ (栃木)	0	0	0	0	0	1	0	3	4
岐阜東ボーイズ (岐阜)	0	0	0	0	0	1	0	1	2

※延長8回
[小] 朝井、小倉-中山
[岐] 北村、佐藤、北村、佐藤、尾口-二村
本塁打: 星 (小、ランニング本塁打)

【準々決勝】8月17日

〈小野路球場〉

浦添ボーイズ (沖縄)	0	0	1	0	0	0	0	1
佐倉リトルシニア (千葉)	1	0	0	1	1	0	X	3

[浦] 比嘉、小浜-佐和田
[佐] 菊地、四十住-京極

〈ジャイアンツ球場〉

神戸中央リトルシニア (兵庫)	0	2	2	0	0	0	0	4
浦和リトルシニア (埼玉)	0	3	1	0	1	2	X	7

[神] 榮、田中、千葉-佐藤
[浦] 中林、渋谷-中井

〈ジャイアンツ球場〉

小山ボーイズ (栃木)	0	1	0	3	0	5	0	9
福岡志免ボーイズ (福岡)	0	0	0	0	0	0	0	0

[小] 仲三河-中山
[福] 坂口、近藤、佐田、渡辺、坂口-前田

〈川口市営球場〉

南国ヤングマリナーズ (高知)	2	0	0	0	0	0	0	2
岐阜東ボーイズ (岐阜)	0	0	0	0	2	0	1x	3x

[南] 井上、吉岡、西村-大石
[岐] 木村、佐藤-二村

【2回戦】8月15日

〈市川市国府台公園野球場〉

大阪福島リトルシニア (大阪)	0	0	0	2	1	0	0	3
神戸中央リトルシニア (兵庫)	0	2	0	2	4	0	X	8

[大] 浦山、中本、清水、中山-小林
[神] 浅川、千葉-佐藤

〈八千代総合運動公園野球場〉

浦和リトルシニア (埼玉)	1	0	0	0	0	2	4	7
生駒ボーイズ (奈良)	0	2	1	0	1	0	0	4

[浦] 櫻井、渋谷、中林、栗原、松本-中井
[生] 本間、城間、藤原-福岡
本塁打: 南雲 (浦)

〈江戸川区球場〉

志村ボーイズ (東京)	1	0	0	0	0	3	0	4
福岡志免ボーイズ (福岡)	2	1	0	2	0	0	X	5

[志] 石川、三田大、鈴木、安達-中澤
[福] 近藤、坂口、近藤-前田

〈箱の葉公園野球場〉

小山ボーイズ (栃木)	1	0	0	1	4	1	0	7
泉州阪堺ボーイズ (大阪)	0	0	0	0	0	2	0	2

[小] 朝井-中山
[泉] 京極、金澤、池尾-前川

〈川口市営球場〉

松原ボーイズ (大阪)	0	0	0	1	1
岐阜東ボーイズ (岐阜)	5	4	2	X	11

※4回雨天コールド
[松] 松林、原-秋山
[岐] 北村-二村
本塁打: 二村 (岐)

【2回戦】8月17日

〈小野路球場〉

青森山田リトルシニア (青森)	1	2	0	0	0	0	0	3
佐倉リトルシニア (千葉)	0	1	1	0	3	0	X	5

[青] 崎崎、八戸-新井山
[佐] 堀井、藤田、菊地、諸隈-京極
本塁打: 角田 (佐)

※15日の試合が雨天のため中断。特別継続試合として3回裏から試合再開

〈上柚木公園野球場〉

浦添ボーイズ (沖縄)	1	1	2	0	5	0	0	9
武蔵府中リトルシニア (東京)	0	0	0	0	0	1	0	1

[浦] 与座-佐和田
[武] 折笠、山村、橋本、山村-小澤

※15日の試合が雨天のため中断。特別継続試合として3回表から試合再開

〈川口市営球場〉

南国ヤングマリナーズ (高知)	0	0	0	0	0	2	0	2
愛知知多ボーイズ (愛知)	0	0	0	1	0	0	0	1

[南] 井上、和田、吉岡-大石
[愛] 津田、川本、山本-木下

※15日の試合が雨天中止

【1回戦】8月14日

〈ジャイアンツ球場〉

佐倉リトルシニア (千葉)	0	1	1	0	0	0	0	2
尾道リトルシニア (広島)	0	0	0	0	0	0	0	0

※ノーヒットノーラン
[佐] 諸隈-京極
[尾] 矢達-横山
本塁打: 渡会 (佐)

〈ジャイアンツ球場〉

鯖江ボーイズ (福井)	0	3	0	1	0	0	2	6
青森山田リトルシニア (青森)	6	0	0	3	2	1	X	12

[鯖] 笠島、榎木-山下
[青] 山村-新井山
本塁打: 宇野2 (鯖)

〈ジャイアンツ球場〉

泉州阪堺ボーイズ (大阪)	0	0	3	0	1	1	0	5
フレッシュ串木野ドリームズ (鹿児島)	0	0	0	0	0	0	0	0

[泉] 池尾、坂上-前川
[フ] 高田、三嶽、石元-城下

〈朝霞中央公園野球場〉

武蔵府中リトルシニア (東京)	0	1	2	5	0	2	2	12
調布リトルシニア (東京)	1	4	0	0	0	0	0	5

[武] 山村-小澤
[調] 中村真、森-吉沢
本塁打: 山村、高橋 (武)

〈朝霞中央公園野球場〉

浦添ボーイズ(沖縄)	1	5	0	1	0	0	2	9
熊本中央ボーイズ(熊本)	1	3	0	1	1	0	0	6

〔浦〕与座、大見謙、小浜一佐和田
 〔熊〕古川、東、坂本一御手洗
 本塁打:古川(熊)

〈市川市国府台公園野球場〉

ヤング神戸須磨クラブ(兵庫)	0	0	0	2	0	2	0	4
大阪福島リトルシニア(大阪)	0	0	2	0	2	4	X	8

〔ヤ〕桂、砂本一森田
 〔大〕清水、中本一小林
 本塁打:田中(ヤ)、渡部(大)

〈市川市国府台公園野球場〉

桐生ボーイズ(群馬)	0	1	0	0	0	0	0	1
神戸中央リトルシニア(兵庫)	1	0	1	1	1	0	X	4

〔桐〕青木、武藤一六本木
 〔神〕榮、田中一佐藤

〈江戸川区球場〉

愛知尾州ボーイズ(愛知)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	
生駒ボーイズ(奈良)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1x	3x

※延長11回タイブレーク
 〔愛〕中西、山口一兼松
 〔生〕実岡、本間一福岡

〈江戸川区球場〉

浦和リトルシニア(埼玉)	8	0	0	0	0	1	0	9
フレッシュ福岡アストロス(福岡)	0	1	0	0	2	0	0	3

〔浦〕中林、栗原、渋谷一中井
 〔フ〕武内、江本、坂本、大岡、稲田一菊池

〈江戸川区球場〉

札幌新琴似リトルシニア(北海道)	0	0	0	0	1	0	0	1
福岡志免ボーイズ(福岡)	0	1	1	1	0	0	X	3

〔札〕山田一五十嵐
 〔福〕近藤、坂口一前田
 本塁打:金丸(札)

〈上柚木公園野球場〉

志村ボーイズ(東京)	1	1	2	0	0	1	2	7
岡山ボーイズ(岡山)	0	0	0	0	2	0	1	3

〔志〕安達一中澤
 〔岡〕宮脇、楠本一濱中

〈川口市営球場〉

岐阜東ボーイズ(岐阜)	2	0	0	0	1	0	2	5
京都嵯峨野ボーイズ(京都)	1	0	0	0	0	0	0	1

〔岐〕中島、尾口、中島、佐藤、北村一二村
 〔京〕茨木、久保、小西一森田、久須美

〈川口市営球場〉

松原ボーイズ(大阪)	0	0	0	3	0	0	0	3
都筑中央ボーイズ(神奈川)	0	0	0	0	1	0	1	2

〔松〕嶋田一秋山
 〔都〕高松屋、鈴木一山田

〈川口市営球場〉

東北楽天リトルシニア(宮城)	0	0	0	0	0	0	0	0
小山ボーイズ(栃木)	1	0	0	0	0	0	X	1

〔東〕阿部、鎌田、洗、安齋一吉原
 〔小〕仲三河一中山

〈府中市民球場〉

平塚ボーイズ(神奈川)	0	1	0	0	0	0	0	1
愛知知多ボーイズ(愛知)	0	3	0	0	0	2	X	5

〔平〕小澤、白井一川田
 〔愛〕山本一木下

〈府中市民球場〉

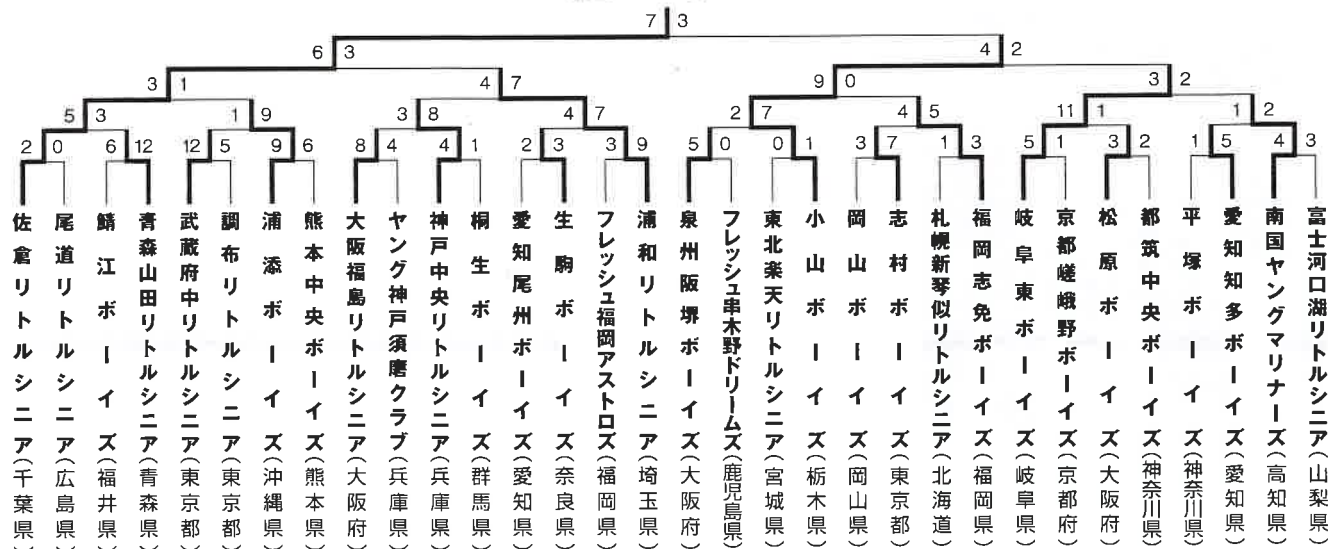
南国ヤングマリナーズ(高知)	2	0	1	0	0	1	0	4
富士河口湖リトルシニア(山梨)	2	0	0	0	0	0	1	3

〔南〕和田一大石
 〔富〕宮下龍、藤田一三木



準優勝を飾った小山ボーイズ

優勝 佐倉リトルシニア





第11回全日本中学野球選手権大会
ジャイアンツカップ

第11回全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップ
優勝監督インタビュー

佐倉リトルシニア

Sakura Little Senior

[千葉]

松井 進 監督

“気は技を制す”

チームメートと切磋琢磨しながら

「絶対に負けたくない」強い気持ちを育む



PROFILE
まつい・すすむ
1953年5月27日生まれ。千葉県出身。千葉敬愛高では主将を務める。卒業後、習志野市役所に勤務しながら軟式チームで選手・監督を経験。少年野球チームで4年間指導を行ったのち、93年に佐倉リトルシニアを創設。25年間監督を務めている。

TEAM DATA

佐倉リトルシニア
[千葉県佐倉市]
創立▶1993年
部員数▶94人(3年29人、2年27人、1年38人)
練習環境▶第一球場(両翼95m、中堅120m)、第二球場、第三球場(照明あり)、室内練習場、合宿所
活動日▶火、水、金(18時~20時)、土(9時~17時)、日祝は練習試合
主なOB▶重信慎之介(巨人)、島孝明(ロッテ)

[過去の主な成績]

春季全国選抜大会出場10回、優勝2回(2015、17年)
夏季全国選手県大会出場15回、優勝2回(2006、14年)、準優勝2回(2003、17年)
ジャイアンツカップ出場7回、優勝3回(2006、14、17年)
※交流大会時含む

見事3年ぶりのジャイアンツカップ優勝を決めた佐倉リトルシニア。交流大会時代も含めると7回出場を果たし、3度の日本一に輝いている。リトルシニアの全国大会にも毎年のように出場し優勝も果たしているチームを、創部からつくり上げてきたのは松井進監督だ。四半世紀にわたり中学野球の指導に携わってきた名將に、その指導論を語っていただいた。

取材・構成／佐野知香 写真／佐藤博之(試合)、BBM

勝てなくても 負けないチームづくり

——ジャイアンツカップ優勝おめでとうございます。リトルシニアの日本選手権大会(8月3～8日)が終わって間もない時期でしたが、チームの状態としてはいかがでしたか。

松井 選手権の決勝戦が終わって1週間ほどでジャイアンツカップの初戦でしたので、調子が落ちるといったことはなかったです。極端に間が空くよりも、大会の雰囲気を持ってきたほうがいいので。

——選手権では惜しくも準優勝でしたが、選手たちの精神面に影響は。

松井 現3年生の代は結構サッパリしていてあまり考え込むようなタイプではないので、引きずっているような様子はありませんでした。むしろ、切り替えて「ジャイアンツカップでは絶対に優勝しよう」という気持ちで大会に臨めたことは良かったのではないかと思います。

——大会期間中は雨天が続き、2回戦(対青森山田リトルシニア)は3回表で中断し、1日空けての再開になりました。

松井 それが一番きつかったですね。負けている状態(1対3)で中断、中止ですから。とは言え、何もできることはないの、我慢するしかありませんでした。

——その間に何か特別な練習や調整などはしなかったのですか。

松井 近くに練習できる場所もなかったの、基本的にホテルの中で自由行動という普段の大会期間と変わらず過ごしました。過去には雨の中で練習して負けたことがあれば、遊ばせていても勝てたこともあるので、大会期間にはあまり練習に力を入れることはありません。

——ホテルでの過ごし方を選手の自主性に任せているようですが、夜更かしなどの不安はありませんか。

松井 それも訓練が必要なことだと思います。ウチではグラウンドにある合宿所に宿泊し、翌日に試合や練習をするといったことを年に数回行っています。これを経験するので、選手たちは合宿期間中にどう過ごせばいいかが分かっているんです。

——小山ボーイズとの決勝戦では先制するものの、4回に3失点し逆転されてしまいます。失点には先発の諸隈投手のエラーも絡んでいました。

松井 相手エースの・仲三河投手は良い選手ですから、試合前には僅差のゲームになると予想していたので、1イニング3失点は少々厳しいと感じましたね。さらに4回裏には無死一、三塁で諸隈がスクイズを三振してしまい、三塁走者が本塁でタッチアウトとチャンス潰してしまった。ただ、ここまで諸隈が頑張ってきてくれたわけですから、代えるという選択肢はありませんでしたね。

選手たちには「投手が頑張っているんだから、打つしかないぞ」と話しました。

——その言葉どおり、6回に打棒が爆発し一挙に6得点のビッグイニングとなり、7対3で勝利しました。

松井 よく相手の勢いを止められたと思います。最後は選手たちの勝ちたいという気持ちが強かったということでしょう。

——2015年に松井監督は「今年の1年生はジャイアンツカップを狙える」という話をされていましたが、彼らが3年生になった今、本当にジャイアンツカップ優勝を果たしました。

松井 もちろん、昨年一昨年のチームもそういった気持ちで取り組ん

でいましたが、今年の代にたまたま良い選手が集まったので、勝ちたいという思いで当時はそう言ったのだと思います。私は「勝てなくても、負けないようにすればいい」という考えでチームをつくりまします。打撃は相手の投手が良ければ力を発揮できませんが、投手を中心に守りの野球をすれば負けることはありません。ただ、大会では投球イニング数の制限などもありますから、勝ち上がるためには試合をつくれる投手が複数そろわなくてはなりません。そういった意味で、今年のチームは諸隈を軸に菊池、堀井、藤井という4投手が中心とならずずっと頑張ってきてくれたことが大きかったと思います。野手では、度会、角田、西川らは昨年のジャイアンツカップにも出場経験がありました。それに加えて、高田や古滝らが成長して、打線に厚みが出ましたね。

基本的なことを くり返し行う

——今年は春の選抜大会でも優勝しており、春・夏・ジャイアンツカップの三冠まであと一歩でした。

松井 年をまたいでなら経験したことがあります(14年選手権、ジャイアンツカップ、15年選抜優勝)、同一年ではありません。三冠まで選手権でのあと1勝でしたから、惜しかったですね。

——常に勝ち続けるチームであるためにどのようなことをしていますか。

松井 特にそういった難しいことを考えたことはありませんが、選手たちがせっかくウチを選んで入ってくれたのだから、やっぱり全国大会には出場させてあげたい。そのために週5日練習を行い、練習量を確保しています。少ない練習量でも、いい



チームの軸であるエース・諸隈



五番・西川は2点ビハインドの6回裏に試合を振り出しに戻す2ランを放った



3回裏、先頭打者として出塁した京極は快走でチャンスを広げ、先制のホームを踏んだ



この試合で3安打をマークし、6回裏にはダメ押しに適時打を放った四番・高田

投手がいれば春までは勝てるかもしれませんが、夏の大会は練習を多くやっているチームが勝つものです。——練習では何に主眼を置いていますか。

松井 ウチは難しいことは言わず、簡単なことの反復練習を多く行っています。中学生ですから難しいことはできませんし、する必要もないと思います。それよりも、まずは基礎をしっかりと身につけること。練習はノック、ティーバッティングなど、どのチームでも行っているような内容ですが、これを徹底的にくり返し行うことが一番だと思っています。——ノックは緩い打球で行っていますね。

松井 緩いノックは小さな石一つでバウンドが変わってしまうため、簡単そうに見えて案外難しいんです。強いノックのほうが、軌道が変わらないので楽です。それに強いボールは結局、投手が打たれている打球と

変わりませんから、それを捕る練習は試合でなかなか生かれません。打ち取ったあたりは芯を外れているため大体ボテボテのゴロになるので、そういったあたりをしっかりと捕れるようにする練習をしたほうがいいと考えています。

——打撃練習ではどのようなことを行っていますか。

松井 平日練習ではカーブとストレートのマシン2台で、それぞれ200球ずつやその倍の400球ずつを打たせることがメインになります。打てるようになるかはともかくとして(笑)、振る筋力がつきますし、難しく考えずに振ることができるようになります。

——投手も投げ込みを行いますか。

松井 投手は1日30球しか投げません。試合の次の日は20球にすることもあります。肩は消耗品ですし、高校でも40～50球しか投げないところもあるそうなので、中学生な

らばそれくらいで十分だと思います。30球の中で何を投げるかは、投手自身に決めさせています。

——冬季期間にはどのようなことをしていますか。

松井 トレーニングやランニングの量が増えますが、基本的に練習内容は変わりません。ただ、冬の間はOBの大学生などが来てくれるので、彼らに指導を任せると選手たちをガンガン走らせてくれます。それで体力、持久力がつきますね。また、11月末までは全体練習を行うのですが、12月いっぱいには自主練習としています。自主練習とは言っても選手は全員参加するのですが、指導者がいない分、小言を言われずノビノビと練習できるので、この期間に技術力が伸びる選手は結構います。——部員数は90人を超えますが、どのように練習しているのでしょうか。

松井 メーンの第一球場にサブの第

二球場、そして夜間でも練習できる第三球場まであるので、学年ごとに分かれて練習しています。指導者は各学年3人くらいが担当します。

——人数が多い分、選手間の競争も激しそうですね。

松井 競争はチーム強化のためにも大事なことだと考えています。高校野球で強豪と言われるチームがなぜ強いかというと、レギュラー争いに勝つための自主練習があるからです。「あいつが2時間やるなら僕は2時間半やろう」というように競争心から自ら練習に熱心に取り組むようになります。ウチでも、特にレギュラーになろうと頑張っている選手などは、練習がない日にも父親と第三球場に来て自主練習をやっています。それがチームを活性化していると思いますね。

本当の素質とは 我慢し努力できること

——佐倉リトルシニアは1993年に創部されましたが、創部の目的は礼儀やマナーを教えることだったそうですね。

松井 本チーム創部以前には小学生の指導を行っていたのですが、卒業した中学生がたまにグラウンドに遊びに来ると「こんにちは」といった挨拶ができなくなっているんです。これでは小学生に教えている意味がないという思いから、中学生の指導を始めました。今の3年生がちょうど25期生になりますね。

——四半世紀、中学生を指導されてきて、変化を感じることは。

松井 子どもへの接し方は変わりましたね。そもそも、昔は怒鳴ったり、



基礎を徹底する佐倉リトルシニアの練習。ノックでは緩い球を正面で捕球ししっかりと送球することを徹底して身につける



打撃練習はティー、マシン打撃で数をこなし振る力をつける

手が出ることもありましたが、今の子どもは父親にも殴られた経験がないと思います。また、私自身年をとったこともあり、時には厳しく言って締めるところは締めますが、以前のように怒鳴りつけるようなことはなくなりました。そのような状況なので、今の選手は私を見ても緊張しませんし、厳しく叱られてもその場では反省してもすぐに忘れてるんじゃないかと感じますね。一方、こちらから面白い話をすれば選手たちは何でも話してきます。昔の選手は私の顔を見ただけでビビったり、話すときにも言葉を選んだり、選手と監督との間に距離がありました。今の選手は違う。その変化に合わせて指導も変えていかなければならないと思っています。

——そうした中でも、指導において譲れない部分はありますか。

松井 勝利を目指すというチームの目標へと必死に向かっていく姿勢が見えない選手は、試合では使いませ

ん。これまでのように言葉で伝えられない指導の中では、結果で気づかせることしかできないですよ。それで自分に足りないものに気づいて変わる選手もいますが、そのままやめていく選手もいます。そういった選手はどこにいても同じでしょう。どんなに野球選手としての素質があるように見えても、一生懸命にならなければ良い選手にはなれません。私が思う本当の素質とは、努力できること、我慢できることです。こうした当たり前のことができるのが良い選手であり、そうした選手にはこれから先も道がひらけていくと思います。

——今年のチームはそうした意識を持っていましたか。

松井 そうだと思いますよ。「僕には野球しかない」と思っている選手もいましたし、そういう考えで努力できる選手が多い年は良い結果を残します。やはり、どんな小さい大会であっても人よりも上を目指すので

「中学生ですから難しいことはできませんし、する必要もないと思います。それよりも、まずは基礎をしっかりと身につけること」



あれば「絶対勝つ」という強い気持ちを持っていないとダメだろうと思います。ウチでは平日に夜間練習をしますが、その時によく言うのは「今、ほかのチームの選手たちはテレビを見ているだろうから、これで2時間差をつけたぞ。1週間で6時間の差をつければ追いつかれないから大丈夫だ」ということです。練習を長時間したから勝てるというわけではないのですが、「これだけやったから負けたくない」という気持ち



クラブハウスにはこれまで獲得した多くの賞状などが飾られており、その中心に今回のジャイアンツカップのトロフィーも加わった

を選手が持つことが大事です。“気は技を制す”という言葉は間違いいはないと思います。ただ、練習もやらずに気持ちで勝てると思込むことはできないでしょう。人に勝つとは人よりもやってきたという自信を持つこと。そこが大事だと常々思いながら指導をしています。

——新チームが始動しています。どのようなチームになりそうですか。

松井 正直まだ、強いか弱いか分からないです。ただ、昨年今の今ごろの諸限はどうだったか思い返してみると、全然ボールはキレいていませんでしたし、まだまだでした。でも11月の関東大会が終わったところからグッと良くなったんです。3年生をずっと見ていたから2年生がヘタに見えますが、冷静に考えれば同じようなものかもしれないですね。

——最高学年になると成長するものなのでしょうか。

松井 自分たちの代が中心となって公式戦に出られるようになると一気に伸びます。やはり練習試合と公式戦では緊張感も違いますし、勝ったことの喜び、負けたことの悔しさもまったく異なります。公式戦を通して得られるものは、選手の成長にとってかけがえないものです。私たちが日本一を目指す理由もそこにあると言えるだろうと思います。

——最後に、中学野球指導者として理想の姿について教えてください。

松井 一番は3年間ここでやった選手たちが高校に行っても活躍してくれる。それを見て自己満足しているのが理想の姿かもしれないですね。それ以上何もないでしょう。ただ、最近は1人、2人とプロに行く選手も出てきていて、そういう選手がもっと増えてくれると、またうれしいですね。

「人に勝つとは人よりもやってきたという自信を持つこと。『これだけやったから負けたくない』という気持ちを選手が持つことが大事」